

国際アート・カルチャー都市としまスマートシティプロジェクト

国際アート・カルチャー都市としまスマートシティ協議会 ((公社)日本交通計画協会、豊島区、日本電気(株)、(株)トーニチコンサルタント)

- 地域の課題**

池袋駅利用者の多くは乗換目的で駅内部に留まる。また、来街者は特定の施設や経路に集中し、街全体の回遊が生まれにくい。

 - ・ 駅利用者の3/4は乗換えのみである(街なかへ人がしみ出さない)
 - ・ 池袋東口エリアでは17.1万人/日がメイン通りのサンシャイン60通りに集中(もう一つのメイン通りのサンシャイン通りは4.7万人/日と少ない)

- プロジェクトの狙い**

「国際アート・カルチャー都市」の実現に向け、池袋駅周辺では回遊性・賑わい向上を目的とした施設(Hareza池袋、4つの公園等)が整備中である。整備効果を最大限に発揮させると共に、混雑回避等により円滑な移動の実現を目指す。

- プロジェクトの内容**

Hareza池袋開業(2020年夏予定)等を見据え、ICT技術を用いた歩行者流動の可視化、各種イベント(プロジェクションマッピング等)と連携した歩行者誘導の効果検証を実施する。



■ 実証実験①

画像解析技術を活用した歩行者流動の可視化による、回遊空間の現状・課題の見える化

実証箇所：池袋駅東口エリア(数箇所)

実証時期：10月下旬頃から1ヶ月程度

実施内容：実証箇所にカメラを設置し、画像解析により歩行者流動状況(密度や流れ)を高精度に把握、混雑の原因を分析。

主要地点の歩行者流動をリアルタイムで分析
⇒数値化



街路での空間的な分布や動きの情報を見る化



■ 実証実験②

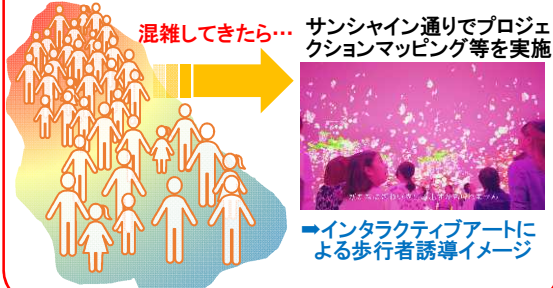
リアルタイムな観測結果を踏まえ、混雑回避のための円滑な誘導の実施

実証箇所：池袋駅東口エリア(1ヶ所)

実証時期：11月下旬頃(休日等3日間程度)

実施内容：プロジェクションマッピング等を実施し、混雑するサンシャイン60通りから空いているサンシャイン通りに歩行者を誘導。また、カメラで誘導効果を観測。

サンシャイン60通りの混雑状況をリアルタイムで観測



● 将来に向けて

○他のデータ(ICカード・交通データ等)と連動した情報共有プラットフォームの構築による街の可視化

○同プラットフォームを活用してPDCAにより街の改善を行うため、官民連携の事業スキームを構築

